

番号	90-2	英語検定資格保有者率 (準2級資格保有者率(高校3年生))	目標値	25.0%
			目標年度	平成22年度
			到達度	

指標の定義および算出式

定義 高校3年生の実用英語検定準2級以上の保有割合

算出式 高校3年生の実用英語検定準2級以上の保有者 / 高校3年生の生徒数

この指標はなぜ重要か

国際化が進む社会において、コミュニケーションの手段としての英語運用能力が日本人に求められるなか、中学校において身に付けた基礎力を固め、さらに伸ばして、実社会で活かせるような英語力の育成を高等学校では目指しています。

実用英語検定は「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域の言語活動における能力を測るのに適した検定であり、準2級は高校2年生終了レベルとなっています。また同時に、国内で広く認知された英語能力試験であり、コミュニケーション能力を測るうえで、県民に最もわかりやすい指標であると考えられます。

現状はどうなっているのか

滋賀の現状

調査資料が残されている平成12年度から平成14年度まで着実に保有者率は増加し、平成15年度も0.1ポイント改善しました。引き続き、外国語指導助手の活用や授業改善、高校生の国際交流推進などの取り組みにより、さらなる保有率の上昇を図りたいと考えています。

保有者率の年度推移：

年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
保有者率	10.6% -	11.2% -	12.3% 全国37位	12.4% 全国26位
全国平均	-	-	14.8%	13.0%

全国の状況や他の都道府県と比較してどうか

高校3年生の準2級資格保有者率は、中学3年生の指標となっている3級の場合と同様、全国平均を下回っていますが、全国平均が平成14年度から低下しているのに比べ、本県はわずかではあります上昇し、全国順位もほぼ中位を占めるようになっています。

この目標を設定した理由は何か

目標値設定パターン：B（全国第1位または上位を目指すとして設定）

理由：昨年目標を設定した際、前年の平成14年度の全国第1位が近隣の福井県の25.8%で、以下、宮崎県（22.8%）、青森県（22.5%）の順でした。

このため本県としては、全国のトップクラスに並ぶ25.0%を目標値に設定しました。また、目標年度については、全英語教員を対象にした教員資質向上研修が終了し、その成果が授業改善となって反映する平成22年度と設定しています。

各主体が果たす役割と今後のパートナーシップのあり方

県が果たす役割（県の施策の概要）

高等学校の英語教育において、教員資質向上研修をはじめとして、コミュニケーション能力の基礎を一層育成できるような指導法等の改善を促したいと考えています。

また、生徒に英語学習に対する興味・関心を持たせ、個々の生徒の英語能力を測る方法として、英語検定試験があることを広く知らせ、機会を捉えてその受検をすすめるよう県立高等学校への指導と啓発に努めるとともに、受検料を補助できるよう予算化が望まれます。

県以外の行政（国、市町村）が果たす役割

これからの英語教育の振興のためには、コミュニケーション能力の育成が重要であり、英語検定の受検を奨励するとともに、小・中・高・大が連携を深めて、一貫した英語教育を推進して行くことが必要です。

県民・民間等が果たす役割

これからの社会がますます国際化し、英語によるコミュニケーションがこれからの時代には必要になることを、生涯学習等あらゆる機会を通じて理解を深めていただくことが大切です。

今後のパートナーシップのあり方

高等学校の英語教育において、コミュニケーション能力の育成を重視した指導を展開していることに理解と協力をいただくよう、日々の活動の中で取り組みたいと考えています。

目標達成への関わりの度合い（マークは最高3つまで）

県	
県以外の行政	
県民・民間等	

関連する県の基本施策

基礎・基本の徹底と個性を伸ばす教育の充実（4 1 1 1）

教育環境の整備・充実（4 1 1 6）

指標の数値はどのようにして把握したか

出典

（財）日本英語検定協会資料

出典以外に参考となる資料等

特になし

担当課：教育委員会事務局学校教育課



の理由（印が昨年度より増えた理由）

全国平均が下がる一方で、本県では2校でスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業の指定校を受けたり、高校に（語学教育等の近代化推進事業により）受験対策ソフトウェアを導入したことなどにより、受験指導が積極的に行われたため、準2級保有者がわずかに増加したものと考えられます。